

# 社会科学学習指導案

6年1組(男子14名、女子15名、計29名)  
指導者 阿久津 泰

## I 単元名 「世界に歩み出した日本」

### II 単元の考察

#### 1 児童の実態

第6学年である児童は、4月から日本の歴史の学習してきている。主に人物の働きや代表的な文化遺産を中心に時代の特徴をとらえ、必要な情報は教科書を中心に資料集やインターネットから集め、ノートやプリントにまとめてきた。前小単元「明治維新を作り上げた人々」では、大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允らを中心とした明治政府が廃藩置県や四民平等などの改革を行い、欧米文化を取り入れつつ近代化を進めていったことを学習してきた。

これまでの学習を振り返ると、本学級の児童は歴史の学習への関心は比較的高く、図書室においても歴史人物についての伝記を好んで読む児童が増えてきている。また、歴史の学習が楽しいと感じている児童も過半数おり、主な理由は「知らないことをたくさん知ることができるから」「歴史上の人物の生き方に興味があるから」などである。授業では積極的に学ぶ姿勢が見られ、修学旅行においても鎌倉の文化遺産に数多く触れ、その価値を尊ぶ態度が見られた。近現代史を学習するにあたり、現代の社会や自分たちが住んでいる地域とのかかわりに目を向けながら活動に取り組めるようにすることで、歴史の学習に対する関心や意欲が一層高まると考える。

小単元の導入時には、提示された資料から課題をつかむ学習をしてきており、提示された絵や写真の中から疑問点や矛盾点を見付ける力は身に付いている。課題解決に向けての情報を意欲的に収集することができ、歴史的事象や人物について調べたことを整理してまとめる力も身に付いてきている児童がいる一方で、資料の文言をよく理解せずにそのまま引用する児童も少なくない。一つの事象に対してじっくり考える習慣を身に付け、必要な情報をきちんと整理して具体的に内容をとらえられるようになれば、さらに充実した調べ学習が可能となる。また、全体的に各人物や歴史的事象の一面的な特徴だけをとらえて判断してしまうことが多く、それぞれの関連に目を向けて大きなとらえで考える力が十分に育っていない傾向が見られる。各人物や歴史的事象を調べてまとめるだけにとどまらず、そこから役割やつながりを導き出して時代の特徴を大きくとらえてキーワードでまとめたり、築き上げた客観的な概念に自分の考えを加えて論述する力が身に付けば、さらに歴史的事象の意味を考える力が高まるであろうと思われる。

授業において資料を活用する場面は多く、これまで円グラフの一番大きな部分に着目したり折れ線グラフから変化の特徴を見付けたりする学習をしてきた。資料から割合や傾向を読み取る力は以前にも増して身に付いてきている。前小単元では、主に絵や写真から、町の中にある欧米文化を読み取っていった。広い視野から考える力を育てるために、今後は年表などの資料を有効に活用して、前後の因果関係をとらえたり、複数の資料を基に情報を整理して総合的にとらえる力を身に付けていく必要がある。さらに地図資料などを活用して、歴史的事象を位置でとらえる力も必要となってくる。

学習してきた内容は知識として確実に定着してきている。ただし、各時代の全体的な特徴、その時代を代表する人物や文化遺産についての理解は、断片的な知識にとどまっている面も見られる。歴史的事象の一部分だけを限定的にとらえて覚えるだけでなく、様々な情報から意味や関連を考えて、広い視野から考えるとともに、正しい歴史概念を身に付ける必要がある。

#### 2 教材観

本小単元は、小学校学習指導要領社会第6学年内容(1)一キ「大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること」を受けたものである。

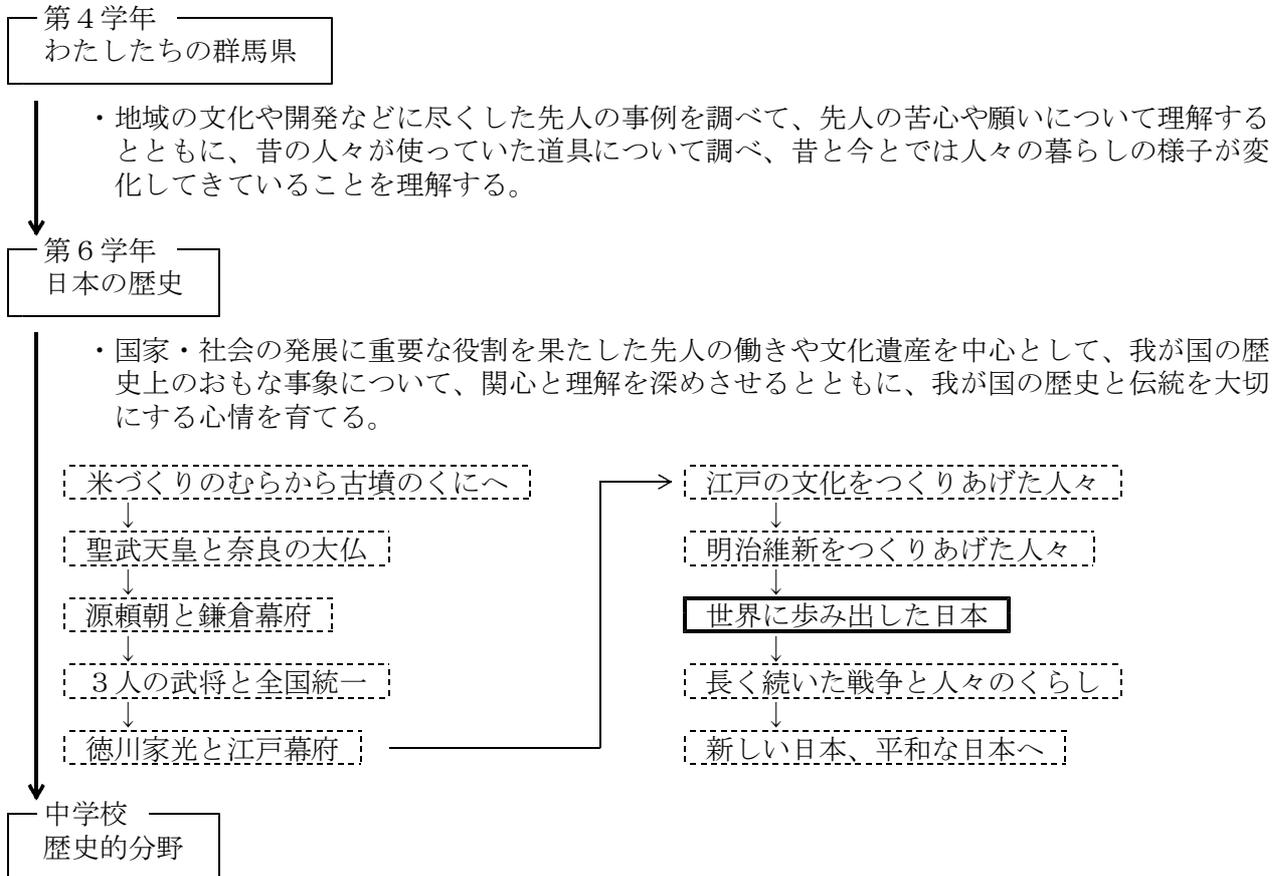
本小単元「世界に歩み出した日本」は、明治中・後期から大正期における歴史的事象及び人物について学習する。この時代、国内では明治維新後の急激な変化の中で欧米を手本にした国づくりを進めていた。欧米と対等の地位を目指す動きが高まり、やがて二つの戦争を経て、不平等条約を改正していく。さらに産業の発達や科学の発展を通して、国民の生活も変化してくる。群馬県内でも生糸・織物産業が活況を迎え、群馬県の産業が日本の発展を支えてきた時代である。やがて鉄道網なども整備されて、現在の群馬県的生活基盤の礎を作ってきた。

この時期の代表的な歴史的事象として、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを取りあげ、条約改正に尽力した陸奥宗光や小村寿太郎、黄熱病の研究で科学の発展に寄与した野口英世などの人物の功績を取りあげていく。明治・大正期の歴史は現代から見て身近なところにあるため、風刺画、グラフや地図、年表などの各種基礎的資料が豊富である。このような資料からの情報をきちんと整理し分析する学習を積むことで、歴史的事象の特色を的確にとらえる力が身に付き、さらに歴史的事象の果たした役割やつながりを導き出しす力が高まると考える。明治・大正期については地域資料も数多く見られる。地域資料を生かして足元から課題を追究させることで、自分たちの住んでいる地域や現代の生活との関連を考えさせる

こともできる。中学校においては、世界の流れも視野に入れて時代を大観し、歴史的事象について多面的・多角的に考える力が求められるため、この時期に歴史的事象の意味を広い視野から考える力を育てておくことは、とても重要なことであると考え。

児童の今までの学習経験を生かし、資料を有効に活用して明治・大正期の時代の大きな特徴をとらえさせることで、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力が育つであろうと考え、本単元を設定した。

### 3 教材の系統



### 4 指導方針

#### 【単元全体を通して】

- 段階的に考える力が高まるように、「つかむ」「追究する」「まとめる」という課題解決的な学習の過程を「課題把握」「情報整理」「比較・関連付け」「総合・再構成」「論述」という5段階に細分化した単元構成を組む。
- 各段階の学習において、調べたことや考えたことを表現したり、交流の際に自分自身が築いてきた考えを確認できるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用する。
- 空間と時間を常に意識しながら思考し、さらに気付いたことなどを自由に記入できるように、アジアの白地図と明治・大正期の年表を用意・配布し、ファイル右側に添付するよう指示する。

#### 【課題把握】

- 疑問点や矛盾点を基に児童自ら学習課題がもてるように、時代の特徴を表す複数の資料（絵・写真）を提示する。

#### 【情報整理】

- 難しい概念について、より分かりやすく視覚を通して理解できるように、プレゼンテーションによる説明を取り入れるなどICT機器を効果的に活用する。
- 調べ学習の際に児童が必要とする資料をより早く見付けられるように、欲しい資料名やその記載場所を明示した「資料の手引き」を用意・配布し、ファイルの左下に添付するよう指示する。
- 教科書の内容だけでなく、課題を身近にとらえさせ足元から歴史を考えられるように、群馬県や桐生市の歴史に関する写真資料、統計資料、地図資料、実物資料を学習の中に織り交ぜていく。

#### 【比較・関連付け】

- 整理した情報を基に自力で関連図が作れるように、事前に全体で作成手順を確認する場を設ける。

#### 【総合・再構成】

○総合・再構成の過程において、明治・大正期の時代の特徴を改めて考え直すことができるように、グループでの交流・全体での交流・教育資料室担当との交流を設ける。

【論述】

○すべての児童が客観的概念に主観を交えた文章が書けるように、論述の目安を複数示す。

Ⅲ 単元の目標

年表や写真、地図、統計などの資料を効果的に活用して、日清・日露の戦争、条約の改正、科学の発展について調べて我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考え、国力が充実し国際的地位が向上していったことを理解するとともに、我が国の歴史や伝統への関心を深めることができる。

Ⅳ 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
日清・日露の戦争や条約改正、科学の発展などに関心をもち、自分たちの生活の歴史的背景もふまえて意欲的に調べている。	我が国の国力が充実し国際的地位が向上していった様子を、産業の発展や外国との関係について調べた情報を基にして、関連付けて考えている。	各種の基礎的資料を効果的に活用し日清・日露の戦争や条約改正、科学の発展の様子を調べ、その過程や結果を目的に応じた方法で分かりやすく表現している。	日清・日露の戦争における勝利や条約改正、科学の発展などを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上していったことが分かる。

V 指導と評価の計画

1 指導計画（全10時間）

過程	時間	学 習 活 動	支 援 点 及 び 留 意 点	評 価 項 目 ◆は「おおむね満足できる」状況 ◇は「十分満足できる」状況
課題把握	1	○日本における近代文化の礎や当時の出来事について、資料を基に気付いたことを話し合い、本単元の学習課題をもつ。	●様々な視点から課題がもてるように、時代の外郭的な特徴をとらえられるような地域の写真（富岡製糸場・桐生明治館）を提示する。 ●矛盾点や疑問点から学習課題がもてるように、2枚の絵（ノルマントン号事件・鹿鳴館）を提示する。	【関心・意欲・態度】 ◆話し合いを通して2枚の絵の問題点と矛盾点に気づき、調べようとしている。 ◇資料を基に2枚の絵の問題点と矛盾点に気づき、積極的に調べようとしている。 (話し合い・ワークシート)
情報整理	4	○各資料から日清・日露の戦争について調べて、分かったことを比べて考える。 ○2つの戦争はどのような影響を与えたか明らかにする。	●アジアの情勢を把握できるように「ビゴの風刺画」「アジア勢力地図」を主な資料として活用する。 ●アジアの情勢を視覚から分かりやすく理解できるように、プレゼンテーションを提示する。 ●各戦争の特色を分かりやすく整理できるように、表に書き込める形式のワークシートを用意する。 ●日露戦争の痕跡が身近に存在することに気づき、関連を考えられるように、地域資料として「東郷の名の刻まれた石碑」の写真を用意する。	【思考・判断】【技能・表現】 ◆各種基礎的資料を効果的に活用し日清・日露の戦争の様子を調べ表にまとめることができる。 ◇各種基礎的資料を効果的に活用し日清・日露の戦争の様子を調べ、共通点や相違点を表にまとめることができる。 【知識・理解】 ◆日清・日露戦争の特徴について理解することができる。 ◇日清・日露戦争の特徴やその後国内外に与えた影響について理解することができる。 (発言・ワークシート)
		○年表資料から条約改正までの様子を調べ、歴史上	●「関税自主権」の概念やそれによって起こる問題点について視覚から分かりやす	【思考・判断】【技能・表現】 ◆年表を基に不平等条約を改正し

情報整理	4	<p>の出来事との関連を考える。</p> <p>○陸奥宗光や小村寿太郎の業績や、条約改正に至った様々な要因を明らかにする。</p>	<p>く理解できるように、プレゼンテーションを提示する。</p> <p>●条約改正までの大きな流れをつかめるように、時系列にまとめるワークシートを用意する。</p> <p>●陸奥宗光や小村寿太郎の働きとともに、国民の意識や外国との関係にも着目できるように、年表資料を使って開国からの出来事を振り返りながら学習を進める。</p> <p>●条約改正の意味を大きなとらえで考えられるように、産業の発達との関連性をおさえる。</p>	<p>ていった様子を調べ、今までの出来事と関連させて考えている。</p> <p>◇年表を基に、不平等条約を改正していった様子を調べ、外交による努力や国際的背景などの観点から考えている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>◆不平等条約の内容と政府の条約改正への努力について理解することができる。</p> <p>◇不平等条約の内容と政府の条約改正への努力や実現した背景について理解することができる。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
		<p>○各資料から朝鮮を植民地にした様子や、国際社会で活躍した科学者のはたらきについて調べ、まとめる。</p>	<p>●朝鮮への支配を強めた様子を具体的にとられるように、写真資料「朝鮮の授業風景」を主な資料として活用する。</p> <p>●韓国併合の概念について正しく理解できるように、支配を強めた理由や問題点について書き込めるようなワークシートを用意する。</p> <p>●我が国が学問の充実に力を入れていたことに気付くことができるように、野口英世やその他の文化人の功績などを調べさせて発表する場面を設定する。</p>	<p>【思考・判断】【技能・表現】</p> <p>◆朝鮮支配を強めた様子や朝鮮の人々の思いについて考えている。</p> <p>◇朝鮮支配を強めた様子や朝鮮の人々の思いについて我が国の国際的立場も踏まえて考えている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>◆科学者の活躍を通して、我が国の国際的地位が向上したことを理解することができる。</p> <p>◇科学者の活躍を通して、我が国の国際的地位が向上したことと現在の社会の発展を支えていることを理解することができる。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
		<p>○各資料から産業の発展や人々の生活の近代化、またはそこから生じた諸問題について調べる。</p>	<p>●戦争と産業発達の相関関係を数字の変化で具体的にとらえられるように、グラフ資料「工業生産の変化」を主な資料として活用する。</p> <p>●群馬県や桐生市の様子と関連付けて考えられるように、地域資料として「明治時代の工場分布」「明治時代の鉄道」などを用意する。</p> <p>●様々な社会問題についても考えられるように、足尾鉍毒事件や全国水平社運動などにも触れる。</p> <p>●地域も含めた大きなとらえで時代の様子をつかめるように、要点を絞り込んだワークシートを用意する。</p>	<p>【思考・判断】【技能・表現】</p> <p>◆産業の発達や戦争によって生活が近代化すると同時に社会問題も起きたことを調べている。</p> <p>◇産業の発達や戦争によって生活が近代化すると同時に社会問題も起きたことを、群馬県の様子も踏まえて調べている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>◆人々の生活や社会の様子の変化を理解することができる。</p> <p>◇人々の生活や社会の様子の変化を地域の発展も含めて理解することができる。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
比較・関連付け	2	<p>○前時までに学習した内容を振り返り、国・社会的事象・人物とそれぞれの分野で学習した言葉を確認し、関連図作りの準備をする。</p>	<p>●学習した国（日本・ロシアなど）、社会的事象（日清戦争・日露戦争など）、人物（陸奥宗光、小村寿太郎など）の意味を改めて考えられるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して、重要語句を洗い出す場面を設ける。</p> <p>●書く時間を短縮してスムーズに関連図が作成できるように、言葉が小さく印刷さ</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>◆「日清・日露戦争」「条約改正」「科学の発展」について学習した内容について、おおよその概念を理解することができる。</p> <p>◇「日清・日露戦争」「条約改正」「科学の発展」について学習した内容について、それぞれの特</p>

比較	2	<p>れた用紙を作成し配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自主的に活動できるように、「関係あるものは線で結ぶ」「関係性を言葉で記入する」「仲間は線で大きく囲む」といった関連図を作成する上での条件を改めて確認する。</li> </ul>	<p>徴をきちんと理解することができる。</p> <p>(話し合い・発表)</p>	
		<p>○国・社会的事象・人物が記入されたカードを使って、それぞれ役割やつながりを考えて、それぞれ独自の関連図を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関連図の核となる部分を間違えずに設定できるように、時間（日清戦争・日露戦争・条約改正）を軸にする方法と、空間（日本、清、ロシア、朝鮮、イギリスなど）を軸にする方法を提示する。</li> <li>●カードが自在に動かして多様な考えが導き出せるように、仮止め、固定の両方が可能な糊を使用する。</li> <li>●低位の児童も意欲的に活動に取り組めるように、途中で隣の児童を見比べるなどの交流場面を設けるとともに、必要に応じて教師から助言を与えるようにする。</li> </ul>	<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆各歴史的事象の果たした役割や人物の功績などを考えて、それぞれの特徴をとらえて直線や矢印で結んだり領域分類などして図式化して考えている。</li> <li>◇各歴史的事象の果たした役割や人物の功績などを考えて、それぞれの特徴や前後関係・位置関係を正しくとらえて直線や矢印で結んだり領域分類などして図式化して考えている。</li> </ul> <p>(発言・関連図)</p>
総合	2	<p>○グループや全体で話し合った内容、また郷土資料室担当の先生から示された新しい情報を基に、各自が抱いていた疑問点を明らかにし、明治・大正時代の特徴を改めて考え直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童が意欲的に話し合い活動に参加できるように、明確な視点を与え、赤丸シールを使ったポイント制を導入する。</li> <li>●児童全体による交流を図る際に、事象の果たした役割やつながりをより具体的につかめるように、板書やスライドを活用する。</li> <li>●作成した関連図に地域の歴史を照らし合わせて考えられるように、郷土資料室担当との交流を図り、当時の桐生の繁栄ぶりを示すような写真資料を提示する。</li> </ul>	<p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「ぐんぐん歴史ファイル」を利用して、自分の考えを相手に分かりやすく筋道立てて説明することができる。</li> <li>◇「ぐんぐん歴史ファイル」を利用して、自分の考えを相手に分かりやすく筋道立てて説明し、他の児童の優れた点や疑問点を指摘することができる。</li> </ul> <p>(発言・発表)</p>
		<p>○交流で得た情報を基に、戦争・条約改正・産業の発展・国民生活の変化などそれぞれの因果関係をより具体化した関連図を考え、再度各自で文字や図を使ってつなげて書き表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時代の全体像をとらえ確かな歴史概念が形成できるように、「国の力が強まる」「国の力が外国に認められる」「産業の発達」「生活の近代化」という国全体が向上したことを示すキーワードを確認する。</li> <li>●上記のねらいに即した関連図が作成できるように、いろいろな児童と相談しながら関連図を作る時間を設ける。</li> <li>●時代の大きな特徴がとらえられるように、第1時につくった学習課題を想起する場を設定する。</li> </ul>	<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆交流を通して新たに得た情報を生かし、「国力の充実」「国際的地位の向上」に着目して考え、関連図で表現できる。</li> <li>◇交流を通して新たに得た情報を生かし、「国力の充実」「国際的地位の向上」「地域や現代との関連」に着目して考え、関連図で表現できる。</li> </ul> <p>(発言・関連図)</p>
論述	1	<p>○今までの学習内容を振り返り、自分なりの考えを論述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ねらいを的確にとらえた文章が書けるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して、歴史的事象の一部分だけでなく全体像をとらえて考えるよう助言する。</li> <li>●低位の児童でも文章が書けるように、学習を通して何が分かったか、何が大事だと思ったか、何をもっと知りたいか、今後何をすべきかといった論述の目安を複数示す。</li> </ul>	<p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆時代の特徴について、自分なりの考えを記すことができる。</li> <li>◇時代の特徴とともに、地域や現代との関連について自分なりの考えを記すことができる。</li> </ul> <p>(論述文・発表)</p>

**第1時（本時は課題把握1／1）**

**1 ねらい**

・わが国における近代文化の礎や当時の出来事についての資料から問題点や矛盾点を見付け、話し合いを通して、本単元の学習課題をもつことができる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、ワークシート、掲示用資料

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学習活動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. ノルマントン号事件の風刺画を見て気付いたことを話し合う。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体で課題意識がもてるように、スライドにて絵を大きく写し出す。</li> <li>・日本人が受けていた不当な扱いに着目できるように、ボート上の船員の表情や態度をしっかりと読み取るよう指示するとともに、日本人とイギリス人が区別できるような提示をする。</li> <li>・華やかな服装や社交ダンスがいかに近代的であるか江戸時代の生活と対比して考えられるように、江戸時代の資料を提示する。</li> </ul>
	2. 鹿鳴館での舞踏会の様子を表す絵を見て、気付いたことを話し合う。	5分	
2枚の絵から分かったことを比べて、学習課題をつくりましょう。			
追究する	2. 「ノルマントン号事件の風刺画」「鹿鳴館での舞踏会の様子を表す絵」それぞれの絵に含まれている歴史的意味を調べる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代末に結んだ修好通称条約の内容が想起できるように、年表資料を活用する。</li> <li>・治外法権の概要が理解できるように、プレゼンテーションを提示して概念を説明する。</li> <li>・鹿鳴館は外国人を招いて舞踏会や音楽会を開くための施設であったという点が読み取れるように、資料集P78の資料を活用する。</li> <li>・それぞれの資料のギャップを比較して考えられるように、「日本人への不当なあつかい」「文明国としてのアピール」という内容のタイトルを引き出して、共通理解を図る。</li> <li>・同等国として認めてもらおうという日本の意図に気付くことができるように、鹿鳴館でのアピールの必要性を改めて考えさせる機会を設ける。</li> <li>・日本は欧米に追いつこうとしているのに、日本と欧米との間には大きな問題が立ちだかっているという事実がつかめるように、改めて資料を提示する。</li> <li>・日本各地の生活の様子は江戸時代とあまり変わっていない事実に着目できるように、資料集P75の資料を活用する。</li> <li>・国の立場で考えられるように、日本は今後何をどうすべきかを児童一人一人に問う。</li> <li>・「産業面や生活面はどのように発展していくのか」そして「不平等条約をどのように改正していくのか」という二つの学習課題がもてるように、「国内に向けて」「国外に向けて」という二つの視点を示す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈本時の評価項目〉</p> <p>【関心・意欲・態度】（話し合い・ワークシート）</p> <p>◆話し合いを通して、2枚の絵の問題点と矛盾点に気づき、調べようとしている。</p> <p>◇資料を基に2枚の絵の問題点と矛盾点に気づき、積極的に調べようとしている。</p> </div>
	3. グループで、二つの絵から分かったことを比べて話し合い、「…なのに…」という形式で問題点を発見する。	10分	
	4. この単元の学習で調べて明らかにしたい課題を「国力の関係」「産業や生活の様子」という二つの視点から設定する。	10分	
まとめる	5. スクリーンに映し出された「桐生明治館」「富岡製糸場」の写真を見て、これから学ぶ時代の大枠をつかみ、今後の学習の見通しをもつ。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米風なつくりに着目できるように、レンガ、白壁、ベランダなどを矢印で示す。</li> <li>・今後の学習の概要をつかめるように、これから学習する明治・大正期を年表で確認し、地域の資料も学習に取り入れていくことを伝える。</li> </ul>

**第2時（本時は情報整理1／4）**

**1 ねらい**

・日清・日露戦争それぞれの特徴を調べ、二つの戦争の共通点や相違点を考えるとともに、その後与えた影響について理解できる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、ワークシート、掲示用資料

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学習活動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. 「ビゴアの風刺画」を見て、4か国の関係について気付いたことを発表し、今後の展開について予想し話し合う。	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれ4か国の場所が確認できるように、大きな地図を黒板に貼る。</li> <li>3か国が朝鮮支配を目的としていることが把握できるように、地図やスライドによる図解で説明する。</li> <li>衝突は免れないであろうという予想がもてるように、今後、日本を含めたこの国々はようになっていくのか何人かに問う。</li> </ul>
	2. 日清・日露戦争という二つの戦争に発展したという事実を知る。	2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日清戦争」「日露戦争」に発展したことを知るために、年表資料を活用する。</li> </ul>
二つの戦争とは、どのような戦争だったのでしょか。			
追究する	3. 教科書 P94 を読み、日清戦争の原因と結果、得たものについて調べ、まとめる。またをやエピソードについても調べ、まとめる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝利して得た領土（台湾）の位置が確認できるように、黒板の地図を使って補足する。</li> <li>多額の賠償金が八幡製鉄所など産業発展の面で生かされという事実がつかめるように、資料集 P80 の資料を活用する。</li> </ul>
	4. 教科書 P94 ～ P95 を読み、日露戦争の原因と結果、得たものについて調べ、まとめる。またをやエピソードについても調べ、まとめる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア各国と欧米各国との力関係をつかみ、また、ロシアが迫ってきていることの危機感を実感できるように欧米各国が次々とアジアに進出してきている様子をスライドにて示す。</li> <li>日本海海戦で活躍した東郷平八郎の功績が分かるように、人物資料集 P80 を基にエピソードを紹介する。</li> </ul>
	5. 作成した表や資料を基に二つの戦争を比較し、共通する点や違う点を考えて、分かったことをワークシートに記入する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>日清戦争よりも日露戦争の方が被害が大きく、逆に利益は少なかったという事実が確認できるように、資料集 P79 の統計資料を用いて比較する機会を設ける。</li> </ul>
	6. 日露戦争の後の国民の反応はどうであったか、地域資料や教科書資料を基に調べる。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争と地域との関連性が考えられるように、校庭にある「お手植え松の石碑」の写真を提示し、桐生が戦争費用の面で多大な貢献をしていたことに触れる。その他何枚かの地域の写真も紹介する。</li> <li>当時の国民は勝利の喜びでわいていた反面、批判の声もあったということにも気付くことができるように、教科書 P95 の「与謝野晶子の詩」、地域資料の「桐生岡公園のライオン像」の写真を提示する。</li> </ul>
【本時の評価項目】 【思考・判断】【技能・表現】（発言・ワークシート） ◆各種の基礎的資料を効果的に活用し日清・日露の戦争の様子を調べ、表にまとめることができる。 ◇各種の基礎的資料を効果的に活用し日清・日露の戦争の様子を調べ、共通点や相違点を表にまとめることができる。 【知識・理解】 ◆日清・日露戦争の特徴について理解することができる。 ◇日清・日露戦争の特徴やその後国内外に与えた影響について理解することができる。			
まとめる	6. 調べたことを基に、分かったことをまとめる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争によって与えた影響を広い視野から考えられるように、アジア・欧米それぞれの視点を設ける。</li> <li>産業面の発展について関連付けて考えられるように、八幡製鉄所の資料を改めて示す。</li> </ul>

**第3時（本時は情報整理2/4）**

**1 ねらい**

・不平等条約の改正までの流れを調べ、歴史的な出来事との関連を考えるとともに、人々の努力や実現した背景について理解できる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、ワークシート、掲示用資料

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. 「ノルマントン号事件」を振り返り、治外法権の内容を知る。 2. 関税自主権についてのスライド資料を見て、関税自主権の概要について知り、当時の日本の貿易状況をおおまかにつかむ。	2分 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不平等条約がもたらす不当な扱いと、それに伴う国民の悔しさや怒りを改めて実感できるように、ノルマントン号事件の資料を提示する。</li> <li>・関税自主権の内容を知り、当時は対等な貿易が全くできていなかった事実がつかめるように、プレゼンテーションを提示して説明する。</li> <li>・アジアの他の国々も不平等条約で苦しんでいるという背景を確認できるように、勢力地図をスライドで示す。</li> </ul>
	日本はどのように不平等条約を改正していったのでしょうか。		
追究する	3. 添付の年表資料を活用し、各歴史的事象をつなげて考えて、そこから分かったことを記入し、全体で話し合う。 4. 2人の外務大臣が条約に成功したことをまとめ、ワークシートに記入する。	15分 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の安い商品が国内で出回り、その結果国内の産業が育たないという因果関係をしっかりとつかめるように、改めてプレゼンテーションを提示する。</li> <li>・それぞれの出来事との関連をとらえられるように、年表の不平等条約にかかわる事項に○印を付ける。</li> <li>・江戸時代末期の開国時に受けた威圧感、ノルマントン号事件での国民の怒りなど、国民の意識に着目できるように、穴埋め式のワークシートを用意する。</li> <li>・条約改正に向けての国民の願いの強まりと、外交による度重なる交渉を関連させて考えられるように、年表資料を効果的に活用する。</li> <li>・いかに条約改正が難しい問題であったか確認できるように、何度も交渉に失敗したことを表す別の年表資料を提示する。</li> <li>・条約改正が成功した対外的な要因について考えられるように、イギリスもロシアと対立していて利害関係が一致していた事実を、スライドにより示す。</li> <li>・陸奥宗光と小村寿太郎の業績が確認できるように、資料集 P78 を活用して調べる時間を与える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（本時の評価規準）</p> <p>【思考・判断】【技能・表現】（発言・ワークシート）</p> <p>◆年表を基に、不平等条約を改正していった様子を調べ、歴史上の出来事と関連して考えている。</p> <p>◇年表を基に、不平等条約を改正していった様子を調べ、外交の努力や国際的背景などの観点から考えている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>◆不平等条約の内容と条約改正への努力について理解することができる。</p> <p>◇不平等条約の内容と政府の条約改正への努力や実現した背景について理解することができる。</p> </div>
まとめる	5. 調べたことを基に、分かったことをまとめる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条約改正は2人の外務大臣の努力だけでなく、国民の強い願いやイギリスとの同盟などが大きく影響していることが理解できるように、政府の努力、国民の感情、外国との関係という三つの視点を示す。</li> <li>・条約改正は国内の産業を大きく発展させるためにも重要な出来事であったことが理解できるように、関税自主権にかかわる資料を提示する。</li> <li>・日清・日露戦争の勝利も大きく影響しているということに気付くことができるように、ワークシートに「前の学習とのつながり」という欄を設ける。</li> </ul>

**第4時（本時は情報整理3/4）**

**1 ねらい**

- ・朝鮮を植民地にしたことを知り、朝鮮の人々の思いについて考えることができる。
- ・科学者の活躍を通して、我が国の国際的地位が向上したことを理解できる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、ワークシート、掲示用資料

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学習活動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. 朝鮮の授業風景の写真を見て、気付いたことや疑問に思ったことを発表し合う。	3分	・日本が植民地として朝鮮への支配を強めたことが確認できるように、朝鮮の学校の授業でカタカナを教えている写真を提示する。
	なぜ日本は朝鮮への支配を強めたのでしょうか。		
追究する	2. 資料を基に朝鮮を植民地にした事実を知り、そのことによる朝鮮の人々の思いやその後の動きについて考える。	17分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領土が台湾、樺太南部と広がっていく様子、そこから大陸進出へと向かっている様子をつかめるように、スライドにより地図を提示する。</li> <li>・韓国併合という事実があったということに着目できるように、年表資料を活用する。</li> <li>・満州への足がかりのために韓国を併合したということに気付くことができるように、地図を基に理由について話し合う場を設ける。</li> <li>・結果として朝鮮の人々の民族の誇りを傷つけたこと、抵抗して独立運動が起こったことを確認できるように、教科書P96のグラフ資料、資料集P79の写真資料を活用して考える場面を設ける。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（本時の評価規準）</p> <p>【思考・判断】【技能・表現】（発言・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆朝鮮への支配を強めた様子や朝鮮の人々の思いについて、考えている。</li> <li>◇朝鮮への支配を強めた様子や朝鮮の人々の思いについて、我が国の国際的地位も踏まえて考えている。</li> </ul>
つかむ	3. 野口英世の写真を見て、気付いたことや疑問に思ったことを発表し合う。	3分	・日本人の国際的地位が向上した様子が確認できるように、ロックフェラー研究所にいた頃の野口英世の写真を提示する。
	なぜ有名な科学者や文学者が育ったのでしょうか。		
追究する	4. 明治時代の科学者や文学者の具体的な功績を調べて、科学的にも日本が世界に認められるようになったを理解する。	12分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野口英世と北里柴三郎の功績を分かりやすくまとめられるように、穴埋め形式のワークシートを用意する。</li> <li>・その他にも当時活躍した人物がいることに気付けるように、資料を基に各自で調べる場面を設ける。</li> <li>・この時代の人々の活躍が現在の日本の発展を支えていることを理解できるように、野口英世、夏目漱石、樋口一葉などいずれもが現在の紙幣に印刷されている事実を紹介する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（本時の評価規準）</p> <p>【知識・理解】（発言・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆科学者の活躍を通して、我が国の国際的地位が向上したことを理解することができる。</li> <li>◇科学者の活躍を通して、我が国の国際的地位が向上したことで現在の社会の発展を支えていることを理解することができる。</li> </ul>
まとめる	5. 調べたことを基に、分かったことをまとめる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすくまとめられるように、朝鮮への支配、科学の発展というそれぞれの視点を設ける。</li> <li>・武力による地位向上との関連も考えられるように、前時までの学習を振り返る場を設ける。</li> </ul>

**第5時（本時は情報整理4／4）**

**1 ねらい**

・産業の発展や戦争によって人々の生活や社会の様子がどのように変わったか考えることができる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、ワークシート、掲示用資料

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. スライドで提示された写真から、気付いたことを発表し合う。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県内においても生活が少しずつ洋風化しつつあるという時代背景を読み取れるように、4人の女子の登校風景の写真と、スキーをする若者の写真の2枚をスライドにて提示する。</li> <li>・和風の中にも洋風な点が混在している点に着目できるように、洋風な部分を赤印で示す。</li> </ul>
追究する	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">人々の生活や社会は、どのように変化したのでしょうか。</p> <p>2. 明治時代の群馬県の様子について地図資料や統計資料を基に調べ、この時期に維産業が活況であったことや鉄道整備が進んだことを理解する。</p> <p>3. 社会の変化について写真資料や読み物資料を基に調べ、近代化の反面様々な問題もあったことについて二つの視点から考える。</p>	<p>15分</p> <p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの戦争の後、綿糸・石炭・鉄の生産が増えたという事実を確認できるように、主な工業製品の生産量の増え方を示すグラフ資料を活用し、生産量増加のポイントとなる部分を全体で確認する。</li> <li>・群馬県の産業発展の様子をとらえられるように、地域資料として「明治時代の群馬県内の工場分布」「明治時代の群馬県内の鉄道」を用意する。</li> <li>・群馬県は生糸の生産も日本一であったことをとらえられるように、当時の統計資料を分かりやすく作り直したものを用意し、活用する。</li> <li>・東京を中心に、雑誌・地下鉄・ラジオ放送など近代化の波が普及したことをつかめるように、教科書P 98のいくつかの写真資料を提示する。</li> <li>・近代化によって起きた新たな問題、またはいまだに解決されていない問題をいくつか追究できるように、資料を基に個人で調べる時間を設ける。</li> <li>・足尾鉍毒事件や全国水平社運動、女性の地位向上運動などを分かりやすくまとめられるように、穴埋め形式のワークシートを用意する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 〈本時の評価規準〉 —</p> <p><b>【思考・判断】【技能・表現】（発言・ワークシート）</b></p> <p>◆産業の発達や戦争によって生活が近代化すると同時に社会問題も起きたことを調べている。</p> <p>◇産業の発達や戦争によって生活が近代化すると同時に社会問題も起きたことを、群馬県の様子も踏まえて調べている。</p> <p><b>【知識・理解】</b></p> <p>◆人々の生活や社会の様子の変化を理解することができる。</p> <p>◇人々の生活や社会の様子の変化を地域の発展も含めて理解することができる。</p> </div>
まとめる	5. 調べたことを基に、分かったことをまとめる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部だけでなく群馬県も近代化していった点、便利になった反面様々な問題もあった点をそれぞれ理解できるように、ワークシートの左側（学習活動2）と右側（学習活動3）それぞれで分かったことを考えるような別々の視点を与える。</li> <li>・日清・日露戦争に勝利したことや条約改正も大きく影響しているということにも気付けるように、ワークシートに「前の学習とのつながり」という欄を設ける。</li> </ul>

**第6時（本時は比較・関連付け1／2）**

**1 ねらい**

・前時までに学習した内容を振り返り、国・歴史的事象・人物とそれぞれの分野で学習した言葉を確認して関連図作りの準備をしながら、明治・大正期の特徴を理解することができる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション一式、ワークシート、掲示用資料

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学習活動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. 今までの学習課題とその内容を想起する。	5分	・第2時から第5時までに学習してきたことを想起できるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を読み直す時間を設定する。
追究する	学習した内容を振り返り、それぞれの意味と時代の特徴を確認しましょう。		
	2. 各領域「国」「歴史的事象や用語」「人物」ごとの用語を全体の中で出し合い、それぞれ大事な部分を考え発表する。	15分	・学習した内容を分かりやすく整理・分類できるように、「国」「歴史的事象や用語」「人物」と、それぞれの3つの領域を示す。なお、国については日本・ロシアなど6カ国、歴史的事象や用語については日清戦争・条約改正など九つ、人物については陸奥宗光・小村寿太郎など9人を設定するように児童から引き出す。 ・時代の中心となるものを具体的にとらえて選び出せるように、合計25個の用語の中から、各自がそれぞれ一番大事なものは何かを考えて、全体の前で発表する場を設定する。
	3. 関連図を作成するために必要な、分類したりつないだりする上での約束事や、それぞれの意味によって線を使い分ける手順を確認する。	15分	・次時に向けて、書く時間を短縮してスムーズに関連図が作成できるように、それぞれの言葉が小さく印刷された用紙を作成し配布する。 ・関連図を作る作業に対して迷いなく自主的に取り組めるように、事前に指導してあった約束事「線でつなぐ」「関係性を短い言葉で記入する」「同じ仲間を線で囲む」ということを改めて確認する。 ・それぞれの関係性を明確に位置付けられるように、「二重線は同じ仲間もしくは同盟」「点線は対立」「直線は原因と結果」など、それぞれ線の規則性を決めるような話合いの場を設定する。
〈本時の評価規準〉 【知識・理解】（話合い・発表） ◆「日清・日露戦争」「条約改正」「科学の発展」について学習した内容について、おおむねその概念を理解することができる。 ◇「日清・日露戦争」「条約改正」「科学の発展」について学習した内容について、それぞれの特徴をきちんと理解することができる。			
まとめる	4. 次時の学習内容を知り、それに向けて準備する。	10分	・既習の知識を有効に生かせるように、確認した25個の用語以外にさらに書き足したい内容があったら、空欄の枠に書き足すように伝える。 ・次時の関連図作成に速やかに取り組めるように、用語の記入された紙をはさみで切る時間を設ける。

**第7時（本時は比較・関連付け2／2）**

**1 ねらい**

・国・歴史的事象・人物が記入されたカードを使い、独自の関連図を作りながら、それぞれ役割やつながりを考えることができる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、ワークシート、掲示用資料、資料のコピー

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の約束事を確認する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的に関連図が作成できるように、スライドを活用して、「線でつなぐ」「関係性を短い言葉で記入する」「同じ仲間を線で囲む」という約束事、「二重線は同じ仲間もしくは同盟」「点線は対立」「直線は原因と結果」という線の使い分けについて改めて確認する。</li> </ul>
追究する	役割やつながりを考えて、関連図をつくりましょう。		
	2. 各カードの役割やつながりを意識して配置を考え、全体がつながるような関連図を仮作成する。  3. 各自が作った関連図を近くの人と見せ合い、修正点を踏まえながら関連図を完成させる。	15分  15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代全体の中心をしっかりとらえられるように、日本・清（中国）・朝鮮・ロシア・イギリスなどの国を基準に関連図を構築する方法と、日清戦争・日露戦争・条約改正などの歴史的事象を基準に構築する方法との二つのパターンを提示する。</li> <li>・小さなカードを利用して動かしながら多様なパターンが考えられるように、仮どめ、固定どめの両方が可能な糊を用意する。</li> <li>・自主的な関連図作成が困難な児童に対しては、具体的な手順ならびに各意味を十分に理解できるように、黒板前に集まる場を設けて意図的支援を施す。</li> <li>・いろいろな考え方に触れられるように、近くの児童同士で関連図を見せ合う場面を設定する。</li> <li>・児童同士で得た新たな情報を生かして自分なりの関連図を形として仕上げられるように、固定糊で各カードを貼る時間を設ける。</li> <li>・早く仕上げた児童に対しては、違う視点から考えたり独自のアイデアを生かせるように、2枚目の用紙や資料のコピーなども用意する。</li> </ul>
まとめる	4. 他の人に分かりやすく伝えるために、自分の作成した関連図のポイントを書く。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連図のポイントを端的に分かりやすく記入できるように、自分の関連図のテーマや工夫点を書き込めるプリントを別に用意する。</li> <li>・次時の学習において分かりやすく自分の関連図を説明できるように、各自で事前に練習しておくよう指示する。</li> <li>・要点をきちんと踏まえた説明ができるように、2分の制限時間内で行うことを知らせる。</li> </ul>

— 〈本時の評価規準〉 —

**【思考・判断】**（発言・関連図）

◆各歴史的事象の果たした役割や人物の功績などを考えて、それぞれの特徴をとらえて直線や矢印で結んだり領域分類などして図式化して考えている。

◇各歴史的事象の果たした役割や人物の功績などを考えて、それぞれの特徴や前後関係・位置関係を正しくとらえて直線や矢印で結んだり領域分類などして図式化して考えている。

**第8時（本時は総合・再構成1／2）**

**1 ねらい**

・グループや全体で話し合った内容、また郷土資料室担当の先生から示された新しい情報を基に、各自が抱いていた疑問点を明らかにし、明治・大正時代の特徴を改めて考え直すことができる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、実物投影機、ワークシート、赤丸シール

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. 産業が発展した事例を基に、一つの歴史的事象にはいろいろな側面があることを知る。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つの歴史的事象には、いろいろな側面があることに気付くことができるように、「生糸の輸出量が世界一」から分かる事実と「製糸場で働く若い女工の問題」から分かる事実との関連性、さらに「重工業の急激な発達」から分かる事実と「公害問題」から分かる事実との関連性を、スライドにて示す。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     いろいろな情報を取り入れて、もう一度時代の特ちょうを考え直しましょう。                 </div>			
追究する	2. 自分の作った関連図をグループの中で説明し、お互いの良かったところをグループ内で話し合う。  3. 代表の児童数名が全体の前で発表し、意見や感想を述べる。  4. 郷土資料室担当者の話を聞き、作成した関連図に地域の歴史を照らし合わせて考える。	10分  10分  15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童個々の交流を図る際に、自分の考えの道筋や根拠を明らかに示すことができるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用する。</li> <li>児童が意欲的に話し合い活動に参加することができるように、「分かりやすい全体図かどうか」「テーマや工夫した点は適切であるか」という二つの視点を与え、ポイント用の赤丸シールを配布し、良かった児童の関連図に貼るよう指示する。</li> <li>全員平等に説明ができるように、1人の説明時間を2分とし、残りの2分を話し合い時間とする。</li> <li>「国際的地位の向上」「国力の充実」という重点をきちんと児童がとらえられるように、その部分にかかわる関連図を作成した児童を、教師が意図的に選んでおく。</li> <li>個人の考えを全体で共有できるように、実物投影機を活用する。</li> <li>事象の果たした役割やつながりをより分かりやすく理解できるように、板書を効果的に活用する。</li> <li>地域の歴史に改めて着目できるように、当時の桐生の繁栄ぶりを示すような写真資料を提示する。</li> <li>身近な問題ととらえられるように、桐生の織物と日露戦争との関係、アメリカとの関係・西小学校との関係の三点に絞った話を展開する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈本時の評価規準〉</p> <p>【技能・表現】（発言・発表）</p> <p>◆「ぐんぐん歴史ファイル」を利用して、自分の考えを相手に分かりやすく筋道立てて説明することができる。</p> <p>◇「ぐんぐん歴史ファイル」を利用して、自分の考えを相手に分かりやすく筋道立てて説明し、他の児童の優れた点や疑問点を指摘することができる。</p> </div>
まとめる	4. 新たな関連図作成の際に取り入れたい情報、または参考にしたい人の名前を用紙に記入する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容や人物名がすぐに記入できるように、A5サイズのメモ書き程度のプリントを別に用意する。</li> <li>次時の学習において、迷わず自主的に取り組むことができるように、自分の関連図を基に作り直すのか、あるいは全く別の関連図を作るか、事前に決めておくよう指示する。</li> </ul>

**第9時（本時は総合・再構成2／2）**

**1 ねらい**

・交流で得た情報を基に、戦争・条約改正・産業の発展・国民生活の変化などそれぞれの因果関係をより具体化した関連図を考え、再度各自で文字や図を使ってつなげて書き表すことができる。

**2 準備**

児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、実物投影機、ワークシート

**3 展開**

（みどりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学 習 活 動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. 交流で得た新たな情報を想起し、新しい関連図のイメージと作成の手順を確認する	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代の大事なポイントをきちんとつかめるように、前時に代表として発表した児童の関連図を、改めてスライドにて紹介する。</li> <li>自分が作りたい関連図のイメージを改めて想起できるように、前時最後に記入した各自のメモを活用するよう指示する。</li> </ul>
新しい考えを生かして、もう一度関連図をつくりましょう。			
追究する	2. 大事なポイントを確認したり、いろいろな人と相談しながら、より分かりやすい関連図を作成する。	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の自由な発想を生かせるように、用語が記入されたカードは使わず、そのまま書き込めような白紙の用紙を配布する。</li> <li>自力で新しい関連図が作成できそうにない児童に対しては、関連図完成までの見通しをきちんともてるように、以前よりもさらに絞り込んだ内容の用語カードを用意し、それを使って前回と同じ要領で関連図を作るよう指示する。</li> <li>前時に決めた参考にしたい児童の関連図を見たり、いろいろな児童に相談したりしながら作成活動に取り組めるように、自由に移動できるような体制をとる。</li> <li>ポイントをきちんととらえた児童の関連図を全体に反映できるように、実物投影機を活用して発表する場を設定する。</li> </ul>
	3. 「国力の充実」「国際的地位の向上」というキーワードを共通理解し、そのキーワードを使って時代の大きな特徴を、短い文章で書く。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1時に設定した学習課題が想起できるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用する。</li> <li>時代の全体像をとらえ確かな歴史概念が形成できるように、「国の力が強まる」「国の力が外国に認められる」という国として向上したことを示すキーワード、さらに「産業が発達する」「生活が近代化する」という地域まで向上したことを示すキーワードを確認する。</li> <li>関連図から見えてきた時代の大きな特徴を、キーワードを使って短くまとめられるように、別のプリントを用意する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈本時の評価規準〉</p> <p>【思考・判断】（発言・関連図）</p> <p>◆交流を通して新たに得た情報を生かして、「国力の充実」「国際的地位の向上」に着目して考え、関連図で表現できる。</p> <p>◇交流を通して新たに得た情報を生かして、「国力の充実」「国際的地位の向上」「地域や現代との関連」に着目して考え、関連図で表現できる。</p> </div>
まとめる	4. 各自がとらえた時代の大きな特徴を、全体の前で発表する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が学習の充実感が得られるように、なるべく多くの児童に発表の機会を与え、それぞれの発表の要点を板書する。</li> <li>広い視野からとらえることの意義を確認できるように、地域にも目を向けられた児童を後半部にて意図的に指名する。</li> </ul>

**第10時（本時は論述1／1）**

**1 ねらい**

- ・前時までの学習において、歴史的事象について調べたり考えたりしたことを的確にまとめ、自分なりの考えを踏まえた文章を書くことができる。

**2 準備**

- 児童 … 教科書、資料集、ゆたかな資料集、ぐんぐん歴史ファイル、筆記用具  
 教師 … プレゼンテーション式、ワークシート

**3 展開**

（みとりのポイント：◆は「おおむね満足できる状況」、◇は「十分満足できる」状況にある児童の姿）

過程	学習活動	時間	指導・支援及び留意点
つかむ	1. この時代で学習してきた歴史的事象を改めて振り返り、それぞれの意味を考える。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習してきたそれぞれの歴史的事象をどの程度理解しているか改めて確認できるように、今までの授業で提示してきた資料をスライドにて一通り提示する。</li> <li>・学習の集大成であることが意識できるように、「ぐんぐん歴史ファイル」において各自が学習してきた軌跡を振り返る。</li> </ul>
追究する	明治・大正期について調べたことや考えたことを文章にまとめましょう。		
	2. よりの確なにまとめる方法について確認し、それぞれのまとめの文章を書く。	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が「国力の充実」「国際的地位の向上」に集約できるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して前時の関連図のキーワードについて確認する。</li> <li>・学習のまとめを文章で的確に表現できるように、出来事の羅列にならないことに重点を置き、客観的な概念を基にして自分なりの考えを書き入れるという条件を与える。</li> <li>・児童の思いが伝わる記述ができるように、第三者を意識した説明文形式、感じたことを中心に記す感想文形式など、いくつかの例を示す。</li> <li>・低位の児童でも文章が書けるように、学習を通して何が分かった、何が大事であると思ったか、何をもっと知りたいか、今後自分は何をすべきか、といった文章の中に記す主観の目安を複数示す。</li> </ul>
	3. それぞれが書いた文章を全体の前で発表する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習してきたことの充実感を感じることができるようになるべく多くの児童に発表の機会を与え、賞賛を与える。</li> <li>・自分の生活に置きかえて考えられるように、現在の生活や社会の発展、国や地域への誇りや郷土愛にも触れた論述が書けた児童を事前に把握しておき、授業の後半で意図的に指名する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈本時の評価規準〉</p> <p>【技能・表現】（論述文・発表）</p> <p>◆時代の特徴について、自分なりの考えを記すことができる。</p> <p>◇時代の特徴とともに、地域や現代との関連について自分なりの考えを記すことができる。</p> </div>
まとめる	4. 自分たちの生活は歴史の上に成り立っているということを、写真資料を基に改めて確認する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史は足元にあるということを改めて気付き、次の時代への学習意欲がもてるように、西小学校の校庭にある「行幸記念碑」の前で出征式を行う兵士の写真を提示する。</li> <li>・驚きが共有できるように、兵士のアップ姿から全体像を映し出していくような提示を行う。</li> </ul>